

第2回ハウジングファースト国際シンポジウム



ハウジングファースト リカバリー
なぜ 住まうことから始める と 回復 するのか
- 世界と日本の現場から -

ホームレス状態の人たち、精神科病院に長期入院している人たち。
そんな人たちも、地域での1人暮らしができる。

その決断と行動に踏み出せずにいるのは、「支援者」という立場にいる人たちなのではないでしょうか。欧米の多くの国で年々、その取り組みが広がっているハウジングファースト・モデルでは、重度の障がいがある人たち、長期にホームレス状態にある人たちに、まずは本人が住みたいと思う住まいを提供し、そして地域で支え合っています。

本シンポジウムでは、ハウジングファースト・モデルでいま世界的にも最も成果をあげている国の1つであるフランスよりゲストを招聘、これまでの東京での実践の試みに照らし合わせつつ実践方法をより深く学び、具体的な支援方法や担い手の育成方法などについて学びます。

日時：東京 2016年11月5日（土）

13：00-17：00（開場12:30）

会場：東京大学伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホール（定員：300名）

会費：2,000円

主催：世界の医療団

共催：コミュニティホームベテぶくろ、NPO法人TENOHASI、訪問看護ステーションKAZOC、
一般社団法人つくろい東京ファンド、ゆうりんクリニック

協賛：

後援：

協力：

プログラム *日仏同時通訳付き

講演1：Pascal Estecahandey氏

総合医、トゥールーズ大学病院所属医師総合医、フランスのハウジングファーストのナショナルコーディネーター、DIHAL（難民や貧困層にむけた住宅支援を手がける政府機関）所属

講演2：ハウジングファースト支援モデルによるアパート入居者との対談

パネル・ディスカッション

ファシリテーター：向谷地 宣明氏 コミュニティーホームベテぶくろ、ひだクリニック

- ・ Pascal Estecahandey 氏
- ・ 稲葉 剛氏（立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授、
一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事）
- ・ 渡邊 乾氏（作業療法士、訪問看護ステーションKAZOC代表）
- ・ 森川 すいめい氏（精神科医、世界の医療団理事）

*なお、プログラムの内容については変更が生じる場合がございますので、予めご了承ください。

お申し込み

世界の医療団HP（www.mdm.or.jp）よりご登録ください。

お問い合わせ

世界の医療団（認定NPO法人）特定非営利活動法人メドウサン・デュ・モンド ジャパン

TEL: 03-3585-6436

Email: communications@mdm.or.jp





総合医、トゥールーズ大学病院所属医師フランスのハウジングファーストのナショナル
コーディネーター、公衆衛生学専任講師
公衆衛生学修士課程修了
12年前より、社会医療機関とホームレス状態の人々へのアウトリーチのコーディネ
ートを行う。2011年4月からは、重度の精神障害者でホームレス状態にある人々を対象
としたDIHAL（難民や貧困層にむけた住宅支援を手がける政府機関）のハウジング
ファースト・プログラムの全国支援コーディネーターを務める。
世界の医療団の一員として15年に渡り、国内、国外ミッション、また国内プロジェク
ト向け運営委員会などに参画。2004年から2010年まで世界の医療団フランス理事。

Pascale Estecahandy 氏

パスカル エステカアンディ

1983年北海道浦河町生まれ。父は浦河赤十字病院のソーシャルワーカー、母は看護師
で、1978年からはじまった浦河べてるの家の活動に両親が関わっていたことで、精神
障害を経験した当事者たちと共に子供時代を過ごした。大学卒業後、株式会社MC
Medianを設立、医療法人宙麦会ひだクリニック(千葉・流山)勤務、ハウジングファ
ースト東京プロジェクトへの参加など通じて、浦河ではじまった当事者研究などの実践
や各地の当事者会、家族会などの応援活動を行っている。

向谷地 宣明 氏

ムカイヤチ ノリアキ



稲葉 剛 氏

イナバ ツヨシ

1969年、広島市生まれ。94年より東京で路上生活者支援活動に関わる。2001年、自立
生活サポートセンター・もやいを設立し、幅広い生活困窮者への相談・支援活動に取り
組む。2014年、一般社団法人つくろい東京ファンドを設立し、空き家活用による低所得
者支援を事業化。同法人は、ハウジングファースト東京プロジェクトの住宅支援部門を
担当している。
現在、一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事、認定NPO法人自立生活サポートセ
ンター・もやい理事、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授。
著書に、『貧困の現場から社会を変える』（堀之内出版）、『鶴の鳴く夜を正しく恐れ
るために』（エディマン/新宿書房）、『生活保護から考える』（岩波新書）、『ハウ
ジングプア』（山吹書店）など。

作業療法士。都内の精神科病院に就職し、日本の精神科医療の現実を知る。病院と
すったもんだし窓際族として過ごす。浦河べてるの家、イタリア・トリエステを視て
地域支援を志す。福島県相双地区の復興プロジェクトに参加し、精神科病院を出る事
を決意。2013年に精神科訪問看護ステーションKAZOC（かぞっく）を開設。同時
にホームレス支援をするハウジングファースト東京プロジェクトに参加。ホームレス
状態を経験した人の中で、精神疾患を持った人たちの在宅生活を維持継続する役割を
担っている。

現在、オープンダイアログ推し。剣道5段。

渡邊 乾 氏

ワタナベ ツヨシ



1973年、池袋生まれ。精神科医。鍼灸師。みどりの杜クリニック院長。2003年に
ホームレス状態にある人を支援する団体「TENOHASI（てのはし）」を立ち上げ、現在
は理事として東京・池袋で医療相談などを行っている。2009年、世界の医療団TP代
表医師、13年同法人理事に就任。東日本大震災支援活動を継続。つくろい東京ファン
ド理事。NPO法人認知症サポートセンター・ねりま副理事。NPO法人メンタルケア協
議会理事。オープンダイアログネットワークジャパン運営委員。
著書に、『障がいをもつホームレス者の現実について書いた『漂流老人ホームレス社
会』（朝日文庫、2015）、自殺希少地域での旅のできごとを記録した『その島のひ
とたちは、ひとの話をきかない』（青土社、2016）がある。

森川 すいめい 氏